

授業のヒント

今回は、初級の授業で大切な文型(パターン)練習のアイデアを紹介します。

テーマ 文型練習のアイデア

目的・教えること もくてき おし
文型(パターン)練習 ぶんけい れんしゅう (1)「～で～を～ます」、(2)「～ました(か)」
学習者のタイプ がくしゅうしや
初級前半 しよきゅうぜんはん
クラスの数 にんすう
何人でも なんにん
準備するもの じゅんび
特になし とく

文型(パターン)練習の必要性

授業で新しい文型を教える場合、普通、図1のような流れで行います。

学習者にまず新しい文型の意味や働き(機能)を導入し、理解させます。その後で、基本練習をします。基本練習の目的は、学習項目の文型の発音とその形に慣れることです。基本練習の時に行うパターン練習には、形に注意して行うものと、意味にも気をつけながら、少し会話に近い形で練習するものがあります。

その練習が終わったら、タスク練習やロールプレイなどの応用練習をしてだんだん自然なコミュニケーションに近づけていきます。この段階では、習った文型を使って学習者になるべく自分自身のことが言えるようにします。

しかし、単純な基本練習がきちんとできていないと、学習者は実際の会話に近い活動(応用練習)がうまくできなくなってしまいます。すると、教師がせっかく楽しい活動を準備していても、学習者は「日本語は難しい」とか「この活動はおもしろくない」といった感想を持つかもしれません。そうならないためにも、基本練習としての文型(パターン)練習は大切です。そこで今回は次のような特徴の練習を紹介します。

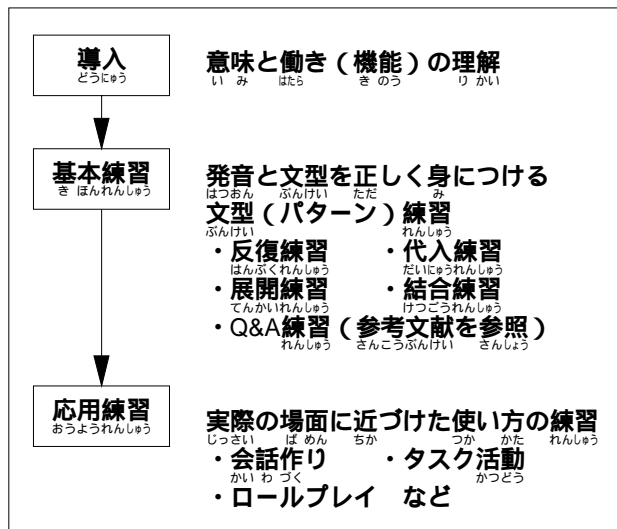


図1

- 準備の時間がかからない。
- 教具などがあまり必要ではない。
- 狭い場所(教室)でもできる。
- ドリルに慣れていない学習者でもすぐのできる。
- 文型の意味を考えながら練習できる。

今回紹介する練習はパターン練習のうち「代入練習」と「Q&A練習」の形を使ったものです。

1. どこで何をしますか

文型: ~で~を~ます [代入練習]

①教師が黒板に練習する文型を使った例文の一つ書き、例のように番号をつける。

例) 私は食堂でコーラを飲みます。
1 2 3

②教師は学習者を1人ずつ指名していく。指名された学習者は1から順にその部分だけを他のことばに変えて、文を作る。どうしてもできない時は2か所変えてもよい。

例) 教師: 私は食堂でコーラを飲みます。

A: 私は公園でコーラを飲みます。

B: 私は公園でジュースを飲みます。

C: 私は公園でジュースを飲みます。

ときどき教師が指示をして、1~3の順序を変えたり、使う名詞や動詞を指定してもよい。

「私は」を「~さんは」として、学習者が次に文を作る



る学習者を指名してもよい。

- 例) 教師: アリさんは食堂でコーラを飲みます。
 アリ: キムさんは公園でコーラを飲みます。
 キム: ヤンさんは公園でジュースを飲みます。

【教師の役割】

- ・学習者が作った文の間違いをなおす。特別な場面では言えることもあるので、学習者が何を考えたか聞くことも必要。
- ・この文型で使えない動詞は何か確認する。
 「(場所)で」が使えない動詞には「行きます、来ます、帰ります、あります、います」などがある。
- ・作った学習者だけでなく、他の学習者にもいっしょに意味や問題点を考えるように言う。

【バリエーション】

他の文型(「教室に(形容詞)+(名詞)があります/います」など)を使っても練習できる。「教室」に1、形容詞に2、名詞に3をつけて、順に変えていく。

想像力を使って、おもしろい文を作るように学習者をばげます。

2. 何をしましたか

文型: ~ました(か)[Q&A練習]

- ①教師は、学習者に昨日またはこの前の日曜日にしたことを5つノートに書かせる。

例) 朝、コーヒーを飲みました。

部屋をそうじしました。
 映画のビデオを見ました。

.....etc.

- ②教師は、何人かの学習者に作った文を1つずつ言わせて、文法的な間違いがないかチェックする。

- ③学習者同士でペアを作り、自分が作った文を相手に質問する。

例) ~さんは日曜日の朝、コーヒーを飲みましたか。
 はい、飲みました。
 ~さんは日曜日に部屋をそうじしましたか。
 いいえ、しませんでした。

.....etc.

- ④ペアの学習者は、相手の答えが「はい」だったら「いいえ」だったら×を書く。

- ⑤ペアでの練習が終わったら、教師は結果を報告させる。

例1) 私は日曜日の朝、コーヒーを飲みました。~さんもコーヒーを飲みました。

例2) 私は日曜日に部屋をそうじしました。~さんは部屋をそうじしませんでした。

【教師の役割】

- ・学習者同士のペアワークがうまくいくように、反復練習などで十分口慣らしをさせる。
- ・②では、形の正しさだけでなく、スムーズに言えるかどうかを確認する。

【バリエーション】

自由に文を作らせることがむずかしいときは、教師が動詞や文のリストを用意して、その中から選ばせてもいい。

参考文献

- 国際交流基金日本語国際センター(1992)『外国人教師のための日本語教授法』
 横溝紳一郎(1997)『ドリルの鉄人』(アルク)

文型(パターン)練習は、実際の会話に近い活動の前にするものです。基本練習を大切にして楽しい授業をしてください。

このコーナーの担当者: 北村武士、八田直美(日本語国際センター専任講師)